

**令和 8 年度第 2 回 日進市高齢者福祉・介護保険事業運営協議会
議事要旨**

【日時】

令和 8 年 8 月 3 日（月）午後 2 時～午後 3 時

【会場】

日進市役所南庁舎第 5 会議室

【公開区分】

公開（傍聴 3 名）

【出席状況】

出席委員（10 名）

田川佳代子（会長）、林啓子、山田茂生、天野典幸、藤嶋日出樹、大川彰治、
澤田基弘、諏訪正美、竹内安子、水野正子

欠席委員（5 名）

井手宏（副会長）、小出貴照、浅井考介、古橋完美、大山英之
事務局

高見紀子（福祉部長）、小出誠二（福祉部次長兼介護福祉課長）、小柳和之（介
護福祉課主幹）、藤田綾子（介護福祉課総括保健師）、櫻木順子（介護福祉課主任
主査）、志水崇法（介護福祉課主任主査）、上野慎也（介護福祉課主任）

【配布資料】

1. 次第、委員名簿、事務局名簿
2. 資料 1－1 認定者数、給付費等の状況
3. 資料 1－2 介護保険事業計画自己評価シート
4. 資料 1－3 第 9 期にしん高齢者ゆめプラン進捗管理シート
5. 資料 1－4 第 9 期にしん高齢者ゆめプラン進捗管理まとめ
6. 資料 2 第 10 期にしん高齢者ゆめプラン（案）
7. 参考資料 1 基本指針について（厚生労働省資料）
8. 参考資料 1－2 基本指針の構成について（厚生労働省資料）

議題（1）第 9 期にしん高齢者ゆめプランの進捗について

事務局説明 資料 1－1、1－2、1－3、1－4

●委員：介護予防等の事業評価について、参加者アンケートは「良かった点」は
書いても改善要望は書きにくい。「良かったこと 3 つ・悪かったこと 3 つ」に分
けて記入してもらうなど工夫すれば、本音や課題が明確になり、より良いサービ
スにつながるのではないかと。

○事務局：ご提案に感謝する。アンケート以外にも、地域の活動団体や地域包括支援センター等と連携し、多様な視点から意見を得ながら、介護予防効果の高いものを考えていきたい。

●委員：資料 1－1 の通所サービスの執行率が計画値と比べて 85%、短期入所も 82%、約 9,000 万円の執行減となっているが、理由を分析しているか。

○事務局：詳細な分析はできていないが、給付費全体が人口推計・要介護者数の想定下振れで 93%となっていることが主要因と推測している。

●委員：減少傾向として捉えて縮小するのではなく、どう通っていただくかは施設側の責任でもある。減少するという前提ではないことを踏まえ、分析のうえ次期計画につなげてほしい。

●委員：計画値算定の推計期間について、幅広い期間を投入すると実態と乖離する可能性がある。他自治体では直近年のみを用いて実態に沿わせる工夫をしている例もある。実態と乖離しない推計を検討してほしい。

○事務局：計画値は 3 年ごとに人口推計を基礎としている。人口推計は介護福祉課単独では算出できず、人口推計の上振れの影響が大きいと考えている。給付費推計は国のシステムを用い、直近だけでなく 3 年間の伸び等を見る仕組みとなっている。

●委員：資料 1－2 の「就労を中心とした社会参加機会の充実」について、移動支援以外の具体的活動、および就労的活動支援コーディネーターの設置状況を教えてほしい。

○事務局：資料 1－3 の 5、6 ページに取り組みを掲載。シルバー人材センター、老人クラブ活動支援等の事業がある。就労的活動支援コーディネーターは第 9 期中の配置には至らない見込みで、必要性も含め次期計画で検討する。

●委員：日進市チェックリスト 2 を用いたセルフマネジメント支援について、サービス卒業後のセルフモニタリング維持が課題。半年～1 年後に当時のアセスメント票を通知とともに送付し、振り返る機会を作ってはどうか。

○事務局：3 か月の伴走支援で自身の心身と向き合い学習していただいている。継続的なチェックのためのツールを地域包括支援センターと相談しながら作成予定。まずは自身で継続する習慣づくりの仕組みを作っていく。

議題（２）第１０期にしん高齢者ゆめプランの策定について

事務局説明 資料２、参考資料１、参考資料１－２

●委員：地域特性を生かした介護サービス提供体制の維持確保、災害・感染症対応など、日進市らしさをどう出していくか。特に社会参加を続けられる仕組みづくりや、移動支援は単なる交通政策でなく高齢者が生き生き暮らすための重要施策。具体化にあたり力を入れる点を伺いたい。

○事務局：認知症施策推進計画を一体化することが大きな点。２０４０年を見据え、認知症の有無にかかわらず地域でつながり支え合うまちを大切にしたい。日進市の強みは地域の力。介護サービスも活用しつつ、支え・支えられるだけでなく互いに支え合う関係、困ったと声を上げやすい環境づくり、自立生活・重度化防止を意識して進める。

●委員：地域の変化を実感している。認知症サポーター養成講座を受けた中学生約４０名が施設に交流に来てくれた。２０年前は知識がなく交流が難しかったが、今は生徒が自然に認知症の方と交流できる。認知症本人がつどい場で語る意見も参考になる。若い世代や認知症本人の意見を取り入れた良い計画にしたい。

●委員：参考資料１－２にある「頼れる身寄りがいない高齢者等」への支援について、社会福祉法改正も踏まえ、地域包括支援センターの負担軽減に留意しつつ、地域全体の課題として検討を深めていただきたい。

○事務局：計画の具体的な内容についてはこれから検討する。

閉会